

# まちづくり来ぶらり

## 特集 丸栄百貨店 MARUEI

丸栄は1943年「十一屋」と「三星」が合併し、誕生しました。“栄の地で丸く栄える”という意味から丸栄と命名されました。

母体となる「十一屋呉服店」の創業は古く、1615年まで遡ります。もう一つの前身「三星」は京都で百貨店を運営していた中村仁一郎氏が名古屋の新店として設立しました。今の丸栄は三星のあった場所に建っています。

戦後、焼け残った店舗から再建を目指し1953年、村野藤吾氏設計、清水組（現・清水建設）施工により新装開店しました。外壁は日本の伝統色「鳩羽色」といわれる灰色がかかった薄紫色のモザイクタイルで統一されています。1956年に増築された際、西側外壁も同じタイルを用い、レリーフ風の模様を施しました。北面は広小路通りに面し縦格子の連続する端正な表現で、



西側はプリンセス大通り入口に面し全面が幾何学的な図柄を描くタイル張りとなっています。この2つの全く異なるデザインの対比が建物最大の特徴ともいわれています。設計者



である村野氏はこの丸栄百貨店で日本建築学会賞作品賞を初めて受賞しました。百貨店の作品賞はこの建物が現存する唯一の建物です。

1989年には外壁改修工事が行われました。デザインを変えんと

## まちづくりライブラリー

全国に誇るまちづくりの専門図書館です。名古屋市戦災復興に関する資料や都市計画関連図をはじめ、都市計画概要などの行政資料、建築・交通・環境などの図書、研究機関・シンクタンクなどの調査研究報告書などを収集しています。

いう意見も出ましたが、日本建築学会賞の初期受賞作品であり、名古屋では数少ない受賞作品の一つということ、設計者・村野氏の意を継ごうということで、デザインは全く変えずに約8億円かけて改修されました。この企業努力が評価され、平成2年度名古屋市都市景観リフレッシュ賞を受賞しています。

昨年発表されましたが丸栄は2018年6月末で閉店し、2020年までを目途に新商業ビルをオープンする方針です。近隣ビルの再開発ともあわせて栄のまちがどのように変貌していくのか、栄地区のまちづくりに注目が集まっています。



◆参考文献 ※（ ）内はまちづくりライブラリーの請求記号です。

- 『丸栄の歩み』「丸栄の歩み」編集委員/編 1D-マル-56
- 『丸栄五十年史』丸栄五十年史編集委員会/編 1D-マル-94
- 『都市景観賞 平成2年度 表彰作品集』名古屋市計画局都市景観室・建築局指導課 2B11-91
- 『時流の先へ 中部財界ものがたりⅡ』中日新聞経済部/編著 2015.2 Sc-チ
- 『村野藤吾のファサードデザイン』京都工芸繊維大学美術工芸資料館・村野藤吾の設計研究会/編 2013.2 Ld-ム
- 『建築士』No.61 2013.1
- 『日経アーキテクチュア』No.405 1991.7.8

## 資料展

まちづくりライブラリー資料展  
「伏見～納屋橋」開催中  
2018年2月9日（金）～5月23日（水）



## 図書紹介

### 『水の土木遺産 水とともに生きた歴史を今に伝える』

著者：若林高子・北原なつ子  
出版社：鹿島出版会（2017.5）  
請求記号：Fa-ワ

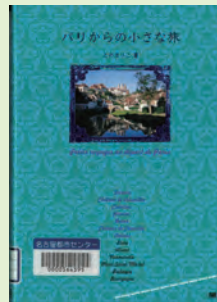
美しい四季と豊かな自然に恵まれた日本には、多くの河川があります。稲作を要した農業が支えてきた我が国では、治水と水利用のための河川技術が古くから発展してきました。本書では、写真と共に、様々な治水施設を紹介しています。世界に誇る水の土木遺産を今に伝える書です。



### 『パリからの小さな旅』

著者：とのまりこ  
出版社：翔泳社（2012.8）  
請求記号：Nz-ト

フランスのランスという都市を知っていますか？2017年に名古屋市は、美術館同士の交流をきっかけにして、ランス市と姉妹都市提携をしました。三つの世界遺産を有する美しい都市です。フランスのパリ郊外にはランスを始めとした魅力ある都市がたくさんあります。紙上で、パリからのプチ旅行を楽しみましょう。



### 『時がつくる建築 リノベーションの西洋建築史』

著者：加藤耕一  
出版社：東京大学出版会（2017.4）  
請求記号：Ia-カ

人口減少による空き家の増加が社会問題となっています。日本では住宅の資産価値は驚くほど低く、築年数の古い物件の価値は、ほとんどありません。翻って欧米では中古物件の価値も新築同様に高いです。本書では、今後、需要の高まるリノベーションを、先駆者である西洋の建築史から振り返ってみることが出来ます。

